

■洞薬会（北九州地区勤務薬剤師会） 8月度学術講演会
（2012/08/02, 18:30～, 会場；ステーションホテル小倉）

「 ATL（成人 T 細胞白血病リンパ腫）の診断と治療 」

北九州市立医療センター 内科 主任部長 大野 裕樹 先生

〔講演要旨〕

～成人 T 細胞白血病リンパ腫について～

成人 T 細胞白血病リンパ腫（Adult T cell Leukemia/Lymphoma=ATL）は、レトロウイルスであるヒト T 細胞白血病ウイルス I 型（HTLV-I）が、患者の CD4 陽性リンパ球に感染して発症する末梢性 T 細胞腫瘍である。

本邦での年間発症例数は約 1100 例であり、その病態の特徴から急性型、リンパ腫型、慢性型、くずぶり型に分類される。ATL は白血病あるいはリンパ腫の中でも非常に悪性度が高く前二者（急性型、リンパ腫型）及び予後不良因子を持つ慢性型は積極的治療が必要である。しかしながら、標準治療は確立されておらず、通常の悪性リンパ腫の治療にならって行っているのが現状である。

日本のある臨床研究の治療成績は 3 年生存率が 24%、生存期間の中央値は 12.7 カ月となっている。化学療法のみで治癒に導くことはまず不可能であり、唯一治癒の可能性のある同種移植を積極的に行っていく必要がある。

そんな中、新たな治療薬としてポテリジオ®（一般名モガムリズマブ）が登場した。

今後治癒率を上げる為にポテリジオをどのように化学療法及び同種移植に組み込んでいくかが課題である。今回 ATL の疫学、病因、症状、検査及び診断、治療について解説する。